

より見えしは冬十有一月丙戌朔甲午と武日本書紀神あるを始とす夫より以下は以天平五年冬

十一月供祭大伴氏神と集萬葉みえたり歌に舊く此月の名をよめるは見るまに雪げの空と成

にけりさらぬにさゆるまもつきの空と秘藏抄みえたるを初とす霜しきりにふるゆへ霜降月と

いふを誤れりと抄典義いひ風寒み霜降月の空よりや雪げとみえてくもり初らんと集藏玉みえた

り又霜月といふ事漢にもふるくいひし事なれどそれは九月をこそいひけれ我國にては十一

月をいひし也その月は異なれど其義をとる事は相同じと雅束いへり又しもつきこの月には霜

のいたくふればいふ舊説さもあるべしと類聚名いひ十一月の和名を霜月といふ霜しきりに

ふる故霜降月といふと日本歳時記いひ霜盛降故曰霜降月と歳時いひしもつき十一月をいふ霜月

の義なりと和訓いへるがごとくもはら此月霜降故月の名とせるは四月を卯月といふも卯の

花盛にひらくる故卯月といふがごとし源君美がいへることく西土にては霜初てふれる義を

とりて月の名となし皇國にては霜盛にふれる月を名付て霜月といへり藤原宇萬伎曰志保美

都伎也保を母に通はせ美を略ける也此月にして木草皆凋ば也と十二月の解いへり按に此月をし

も月と云ふは下の義にもとれりいかにとなれば十よりして一にかへりて十一十二と數をと

れば十一は下にかへる義にてしも月といふなり左傳に十は盈數也とみえたるにても義明か

なり此月の異名のごときはなかの冬と曾丹集いひつゆこもりのは月と秘藏抄いひ雪待月神歸月

と莫傳抄いひ雪見月神樂月と藏玉集いひ子月と瑤壺抄いへり

〔日本書紀神武〕是年也太歲甲寅其年冬略中十有一月神武

〔日本書紀通證神武〕十有一月霜月也言霜盛降之

〔萬葉集三〕右歌者略以天平五年冬十一月供祭大伴氏神之時聊作此詩

〔秘藏抄上〕十二月異名 十一月霜月略中 露こもりのは月